

保護者様、地域の皆様

横浜市立上星川小学校
校長 西山 久美子

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和5年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果がまとまりましたので、結果をお知らせいたします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果をもとに、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。保護者の皆様には、本調査の趣旨を十分にご理解していただきますようお願いいたします。

(1)教科学習状況調査結果

平均正答率 (%)

	国語	算数
上星川小	67	63
神奈川県	66	63
全 国	67.2	62.5

全国の正答率と比較して結果に特徴のある問題

	全国より上回った問題	課題のある問題
国語	○文章の種類とその特徴について理解し、正しく捉えることができる。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
算数	○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる。 ○台形の意味や性質について捉えることができる。	○一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる。 ○正三角形の意味や性質について理解し、正しく捉えることができる。

(2)質問紙調査結果 (全国平均を比較して結果に特徴があったもの)

- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んだ児童が9割近くいる。また、「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか。」の質問に対しても「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を8割を超える児童が選んでいる。学校全体で普段の授業の中で話し合いや協働活動を積極的に取り入れ、その中で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると児童が実感している。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の質問に対し、「当てはまる。」を選んだ児童が7割を超えている。算数の授業の中で日常の一場面とつなげながら児童の必要感を高め、どのような考え方や既習事項を用いれば答えを導き出せるのかという授業づくりをさらに学校全体で取り組んでいく。
- 生活質問紙において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の質問に対し、98%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んでいる。なかよし活動などの異学年交流や地域の方との交流を通し、自分の得意分野や興味関心に目を向け、自己有用感をさらに高めていけるように取り組んでいく。

今後も漢字の読み書きや計算など基礎基本の定着を図るとともに、学習で身に付けた力を活用する力を伸ばすよう指導していきます。また、学校生活の中で友達と協力し合う場面を通して、充実した日々になるよう支援していきます。